

1 学校教育目標

県教育委員会関係各課の「平成 2 8 年度教育指導の重点や取組の方向」及び本校の校訓「創造」「礼節」「勤労」のもと、励まし合い・認め合い・個性を高め合う教育をとおして、誠実で自立した人間（産業人）の育成を目指す。

2 本年度の重点目標

- (1) 学力の向上と教科指導の充実
アクティブラーニングの推進、教科指導方法の改善・工夫
- (2) 生徒指導の充実
健全な心身の育成、段階的指導の有効活用、いじめ防止、生徒支援の充実
- (3) キャリア教育の充実
勤労観・職業観の育成、目的意識の確立、個に応じた進路指導
- (4) 地域連携
開かれた学校づくり、ボランティア活動の推進、他校との交流、広報活動の充実
- (5) 人権教育、道徳教育の充実
すべての教育活動において実践

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	育友会活動の 充実	文書回収率	回収率、平均80%	安心安全メール 活用で保護者参 加率の増加	B	回収物によってばらつきはあるが、概ね80%以上の回収はできている。担任と連携して回収率の向上に努めたい。
		安心安全メール 加入率	80%以上加入		A	現時点での加入率は85%を超え、多くの保護者への情報伝達手段として活用できている。今後も文書等で加入を促し、加入率の向上を図る。
	地域連携の充 実	「かざぐるま」 店舗活動	地域のイベント を中心に店舗活 動（地域イベン トへ10件出 店）	地元イベントと の連携の中で地 域の人達との交 流を盛んにす る。	B	地域イベントへの出店では、目標値の達成をすることができた。今年度は新たに、地元企業のご協力のもと、生徒たちが企画・運営するイベントを開催することもできた。今後は地元企業と連携した商品開発や流通を意識したマーケティングなどに重点を置き活動していくことが求められる。
		技術ボランテ ィア実施回数	地域を拡大し て、年間20件 以上実施（昨年 度18件）	近隣（七城・植 木）地区への広 報開始	B	地域からの信頼も厚く、様々な方面から多くの依頼を受けている。リヤカーや門扉の修理製作等、時間のかかる依頼も増えており、実績10数件と対応に時間がかかっている。
	入学者確保に 向けた取組の 充実	中学校への訪問 回数	担当中学校への 3回以上の訪問	山鹿・菊池・玉 名・北区の中 学校へ担当者が 訪問し、積極的 に情報発信	B	学校説明会や学校案内の持参等、平均3回程度の訪問を実現できた。場合によっては、入学式への参加や運動会への参加もあり、5回以上の訪問を行った中学校もある。訪問だけでなく、高校生活の状況報告等の情報発信も検討していきたい。
		商工フェスタの 充実	来場者数の1500 人（昨年度1500 人）	店舗販売、体験 コーナーを強化 し、広報活動を 積極的に行う。	B	来場者数は概数で1200人程で昨年マイナス300人であった。生徒自らポスティング宣伝活動を行ったが、今年は新聞折り込みができなかったため、その影響が考えられる。一方で、会場の集客状況は運営にちょうど良く、事前の入念な準備の成果もあり、当日はスムーズであった。イベント参加者のアンケート評価も上々であった。生徒のコミュニケーション能力の向上にも一定の成果があった。
		体験入学の参加 者数	参加者数190人 以上（昨年度 190人）	内容を充実させ、各中学校へ積極的な参加を呼び掛ける。	B	熊本地震の影響で中学校の終業式が遅れたため、8月の実施とした。そのような中、参加者数は昨年と同様に190人程度であった。アンケート調査では「時期的にも良い」という回答が81%であった。8月は職員の研修等が多く入る時期であり、受け入れる学校の負担が大きいことが課題としてあげられる。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	基礎学力の向上	基礎学力診断テストの実施	12月実施の基礎学力診断テストにおいて、成績下位層の理解度D・Eの割合を1、2年生ともに20%以下	チャレンジタイムによる学び直しの充実 習熟度別指導の充実	B	基礎学力確認テストにおいて、成績下位層D・Eランクの生徒は前年度が1年生18%、2年生16%であった。これに対し本年度は1年生36%、2年生12%という結果であった。このことから、1年生の学力が厳しいという状況があり、対応が必要である。2年生は1年次より基礎学力の伸びが確認できた。これは、チャレンジタイムによる学び直しや習熟度別学習指導等の継続した取組の成果であると考えられる。
	授業改善	アクティブラーニングの実践	能動型学習を取り入れた研究授業を各教科で実施	アクティブラーニングで生徒の主体的な学習態度を育む	B	「各教科1回は研究授業実施」という目標を立て、9月から11月までの間に研究授業に取り組んだ。校内研修でありながら、教育委員会や他校からも多数の参観があり充実した研修となった。今後は、年間を通してアクティブラーニングを実践していくためのスケジュール設定が重要であると考えられる。
キャリア教育（進路指導）	目的意識の確立	志望の状況	1年生：7割の生徒が就職か進学かの進路希望を決定 2年生：8割が進路目標設定	進路希望のこまめな実施	B	1年生の進路希望については、目標に達しているとはいえない。2年生の進路希望については、企業見学などの実施によって、意識が高まっている。また、3年生の就職決定を受けてからの動きも見られるようになった。
		生徒の進路意識高揚	学校紹介就職：100% 進学決定：100%	ライフプランニング講座 企業と生徒の交流会 進学ガイダンス	A	企業との交流会やガイダンスなどの事業は生徒にはおおむね好評である。また、景気が上向いていること、全体の生徒数が少なかったこともあって、3年生の就職・進学ともほぼ順調に進んだ。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	基本的な生活習慣確立と規範意識の醸成	教頭指導数の減少	0人（昨年度1人）	段階的指導を用いた徹底した指導	C	教頭指導数が11名（1年生10名、2年生1名）と目標を大きく下回った。指導票の撤廃に向けて指導内容の検討（指導無視等）や本校の目指すべき生徒像について教職員間の意志疎通を密にして来たが、撤廃についてはもう少し検討していく必要があると感じる。
	交通安全教育の徹底	交通違反・事故件数	0件（昨年度交通違反0件・事故件数7件）	街頭補導や交通安全教育の充実	C	特にバイク通学生の安全教育に力を入れてきたが、事故13件、違反1件があった。その都度バイク通学生を集めて安全教育の徹底を図っているが重大な事故につながらないか日々心配な状況が続いている。バイク通学生の登校指導などを通して引き続き指導していきたい。
	情報モラル教育の推進	ネットでの誹謗中傷事案の減少	0件（昨年度1件）	集会やLHRでの啓発活動の実施	C	SNSの不適切な利用の情報は把握し、個人的な指導をする機会が増えている。そのことが原因で不登校になるケースも出てきており、家庭でのルール作りも進んでいない現状がある。家庭と学校が一体となって根気強く指導していく必要がある。
	生徒会活動の充実	ボランティア活動に参加した生徒の数	年間90人以上（昨年度87人）	生徒会を中心とした取組を部活動単位等に呼び掛ける	B	様々な学校行事を通じて地域社会に活気ある学校をアピールすることができた。また、生徒たちはボランティア活動にも積極的に参加し、参加者は総勢73名であった。
	主権者教育の充実	投票率、選挙違反者数	投票率90%以上 選挙運動違反者0件	外部関係機関と連携した模擬投票や選挙前の啓発活動	B	県選挙管理委員会による出前授業と模擬投票を実施したり、生徒会選挙において投票箱等を市選管より借用して投票を実施したりして、主権者教育の充実を図った。選挙運動違反者はなかったものの、投票率の把握は課題が多く実施することが難しかった。今後の課題としたい。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
人権教育	人権教育講演会の充実	人権教育講演会のアンケート実施（対生徒）	4段階評価において評価満足度3.5以上を目指す。	生徒目線での講師や内容の選定	A	昨年まで本校に勤務されていた先生に、人権問題についての話と歌を交えた講演をしていただいた結果、満足度は3.9だった。
	命を大切にす る心を育む指 導	講演会の実施 関連教科におい て命の大切さを 考えさせる	講演会を3回以 上実施 年間を通して命 について考えさ せる授業を展開	関係部署が立案 し講演会を実施 する。 関連教科で指導 内容を洗い出 す。	B	年間6回の講演会を実施し、様々な方向から命の大切さについて考えさせた。今後は「命の大切さを考える」ことを明確な目標にすえた授業を充実させたい。
特別 支援 教育	困り感のある 生徒への組織 的な支援体制 の醸成及び強 化	特別支援教育の 推進	講演会等を年2 回以上実施	SSW、SCや外部 講師による職員 研修実施	B	夏休み中にSCによる職員研修を実施。「保護者対応について」カウンセリングの手法や事例を通して実践を行った。職員には好評であった。次年度以降も継続していきたい。
		困り感のある生 徒の発見、職員 との連携と SSW、SCへのつ なぎ	学期毎に校内員 会の実施 毎週1回SSWと の会議 月1回SCとの会 議の実施	ケース会議や校 内委員会の実施 及び支援室会議 の実施	B	毎週木曜日、相談室にて会議を実施。SSWに同席して頂き、学校⇄SSW双方向の情報の交換を行っている。支援室会議であった生徒について、継続的に情報を収集している。7月に実施した「こころの問診票」をもとに、担任とSCとの面談を行った。
		支援策の情報共 有と職員への周 知	生徒情報収集 支援計画の作成	中学校訪問、二 者面談等により 生徒の状況を把 握し、当該生徒 の支援計画を作 成	B	中学校訪問、新入生面談により継続支援が必要な生徒・保護者とSSW、職員が面談を実施した。夏休み中に各担任に支援計画の作成を依頼し、支援策の情報共有ができた。全職員への周知・徹底に欠けていた部分がある。次年度以降の課題である。
いじ めの 防 止 等	いじめのない 学校づくり	いじめの早期発 見、早期対応の 取組	次回アンケート で、「いじめが 継続している」 0件を目指す。	いじめの防止の ため、年間5回 アンケートを実 施	B	5回のアンケートの内いじめが継続していると回答した生徒は2人であった。いじめがあるとアンケート等で答えた生徒に対しては、個別に対応して現状の確認を行い、その都度解決を図るようにしている。
				「いじめの早期 発見・早期対応 マニュアル」に 沿って対応	B	マニュアルに沿い、年3回有識者を招いてアンケートの結果を基に慎重な会議を開いている。重大事案は発生していないが、いざというときのためにシミュレーションを職員研修などに取り入れていかなければならないと考える。

4 学校関係者評価

(1) 評価された点

- ・光プロジェクトなどの学校独自の取組により、魅力ある学校になっていると感じる。
- ・学力の底上げをするためのチャレンジタイムの実施は優れた取組である。
- ・アクティブラーニング型の授業に、積極的に取り組むことは良いことである。

(2) 課題として指摘された点

- ・生徒数が増えたことは良いが、課題も多くなっているとのこと。年度により入学する生徒の状況も波がある。
- ・家庭学習の評価について、生徒、保護者、職員の評価が異なっている。生徒はやっているつもりでいるが、保護者や職員は違った認識である。
- ・商工フェスタは、休憩スペースを設けたり、生徒の実習作品を展示したりするなど、工夫の余地がある。

5 総合評価

(1) 本年度の学校教育目標

学校評価アンケートでは、学校生活が充実していると感じている生徒が87%、子どもが充実した学校生活を過ごしていると感じている保護者が88%、鹿本商工高校に入学して良かったという生徒が81%、入学させてよかったという保護者が91%等の結果がでており、本校における教育活動に対して一定の評価を得ている。難関資格検定の合格、進路決定率99%等の実績が上がっており、誠実で自立した人間（産業人）の育成に繋がっている。課題も残されているところではあるが、全体としては概ね目標を達成することができた。

(2) 本年度の重点目標

アクティブラーニングを推進し、授業改善に資することを目指して研究授業に取り組んだ。この取組をとおして、授業改善に対する職員の意識が高まった。生徒による授業評価では7月より11月の結果が高い評価となった。

生徒指導の充実を図るために、段階的指導、登校下校時の校門指導、頭髪服装指導等に取り組んだ。学校評価アンケートでは生徒及び保護者ともしっかりと指導がなされているとの評価であったが、多様な生徒が入学している状況もあり問題行動や交通事故が昨年度より多くなった。

地域との連携を目指して、地域のイベントへの出店や技術ボランティアに積極的に取り組み高い評価を得た。生徒たちのボランティアの参加も例年以上に多く、地域からも評価していただける状況になっている。

(3) 自己評価総括表

安全安心メールの加入率が上昇し、学校の情報を保護者へ伝えることが容易になってきた。学校評価アンケートでも、保護者への広報に関する項目の評価が大幅に向上した。

人権教育講演会の内容を見直し、お話と歌を交えたコンサート形式とした。併せて保護者へも案内をした。実施後の満足度は3.9（4点満点）と高い評価であった。

主権者教育の充実に取り組み、選挙管理委員会による出前講座と模擬授業、本物の投票箱等を借用しての生徒会役員選挙等を実施した。投票率の把握は実施できなかったが、選挙違反で指導される事例はなかった。

本年度は生徒指導に関する項目でCの評価が多くなった。生徒指導部を中心に取り組んでいるところではあるが、多様な生徒が入学している実態もあり、指導の在り方を考える必要性も感じられる。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 課題

ア 特別な支援を必要とする生徒もいる中で、課題を抱えた生徒への対応に追われる実状がある。

イ 課題を提出することができなかつたり、義務教育段階の基礎学力が身に付いていなかったりする生徒が在籍する実態がある。

ウ 学校改革の推進の動きの鈍化が感じられる。職員の学校評価アンケートの中でも、昨年度より大きく評価が下がった。

(2) 改善方策

ア 生徒の事態を踏まえた生徒指導の在り方を研究し、専門的な立場からのアドバイスを受けたり、SSW及びCS等の積極的な活用に努めたりする。

イ アクティブラーニングを意識した授業を実践し、生徒が学ぶ喜びを実感できる授業を展開する。課題を提出できない生徒に対しては、個別指導を行うなどの支援を行う。

ウ 先進的に行ってきた取り組みを更に充実させ、持続可能な取り組みを模索する。校務改革と授業改善を全職員で意識しながら、業務に当たるようにする。

平成28年度学校評価アンケート結果考察

1 はじめに

平成28年度学校評価アンケートは、生徒、保護者及び職員に対して実施した。回答数は、生徒309人、保護者277人（303世帯）、職員51人で、回収率平均94.8%であった。延べ45項目についての質問事項の内容は、学校全般について6項目、教務関係事項8項目、進路関係事項5項目、生徒指導関係事項11項目、総務関係事項5項目、保健体育関係事項6項目、専門教育関係事項4項目となっている。各対象別の質問項目は、生徒対象で37項目、保護者対象で33項目及び意見記述欄、職員対象で40項目を設定した。評価については4段階評価を用いている。評価4を良くあてはまる、評価3がややあてはまる、評価2があまりあてはまらない、評価1が全くあてはまらない、として評価平均が4に近いほど評価が高い設定とした。

2 結果分析

(1) 生徒評価について

評価が高い項目は、安全教育等に関する項目で評価平均3.5を超える項目があった。最高値を示した項目は評価平均3.58の実習室の整理整頓及び環境整備に関する項目であった。あいさつや服装などの身だしなみ指導に関する項目も3.5を超えていた。

評価が最も低い項目は、昨年度に引き続き、家庭学習の指導に関する項目で評価平均3.02（平成27年度2.95）であった。前年より改善は見られるものの低い評価のままである。

過去4年間の平均より大きく伸びた項目は、生徒及び保護者への広報に関する項目で0.36上昇した。全体として過去4年間の平均より（3.14）より高い評価平均（3.36）となった。

(2) 保護者評価について

評価が高かった項目は、生徒及び保護者への広報に関する項目3.44、美化活動に関する項目3.41、入学してさせてよかった3.40、学校徴収金の明確化3.39であった。最高評価を得たのは、あいさつや服装などの身だしなみ指導についてで、評価平均3.54であった。

評価が最も低い項目は、生徒評価と同じく家庭学習に対する指導で評価平均は2.78であった。その他にも2.91の中退・不登校に対する指導も評価が低かった。

(3) 職員評価について

評価が高かった項目は、あいさつや服装などの身だしなみ指導について3.66、実習時の安全教育3.56、芸術鑑賞3.56、実習棟の整理整頓及び環境整備3.50となっている。最高評価を得たのは、生徒及び保護者への広報に関する評価、評価平均3.76であった。

評価が最も低い項目は、生徒・保護者評価と同じく家庭学習に対する指導で評価平均は2.43であった。また、校務改革の項目が2.85で、昨年度より0.23の大幅な減となった。

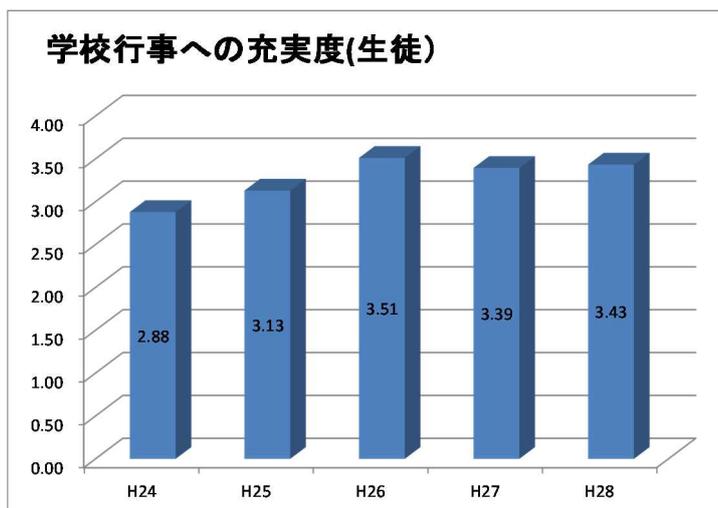
(4) 過年度比較について

過年度比較については、過去3年間の評価平均と本年度の評価平均の差を標準偏差（生徒0.14、保護者0.13、職員0.20）から、0.2以上と以下で比較検討した。【標準偏差の値で偏差値の10を表わす】

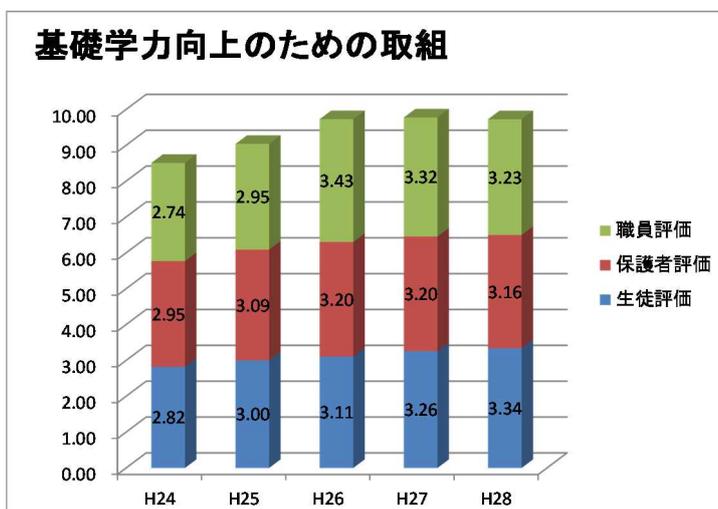
生徒評価については、37項目中全項目が上昇し、21項目が0.2以上の上昇であった。職員評価では40項目中6項目が0.2以上の上昇がみられたが、11項目で低下し、校務改善の項目では0.23の低下であった。保護者評価については、5項目でわずかな低下が見られたが、33項目中25項目が上昇という結果を得た。

以下についてはいくつかの特徴的なものを上げて分析する。

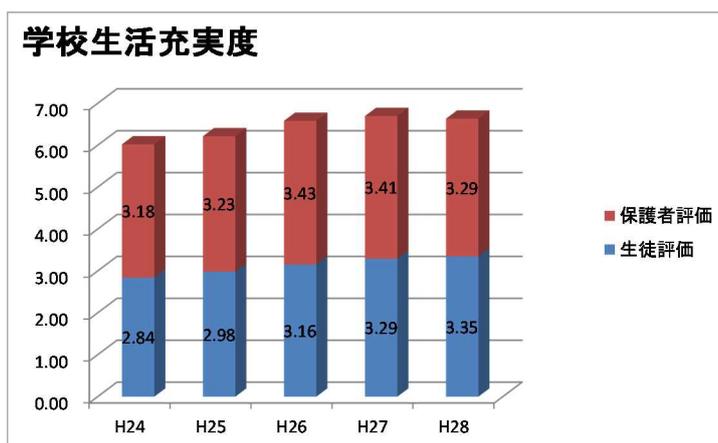
(4) - 1 学校全般質問項目の中で、生徒対象に行った「学校行事である商工フェスタや体育祭は楽しく充実している」に回答した生徒は、回答者の評価平均が 3.43。一昨年度の数値には及ばなかったものの、昨年度より高い評価を得ている。魅力ある学校行事の創造に励みになる数値である。



(4) - 2 本校では授業改革と同時に、基礎学力の向上にも取り組んでいる。グラフのとおり、総合的に評価は高い水準である。特に生徒の評価が上昇していることが注目される。職員と保護者の評価が低下したがその分を補うように生徒評価が上昇している。生徒に基礎学力向上を意識させて取り組みを続けている成果であると考えられる。

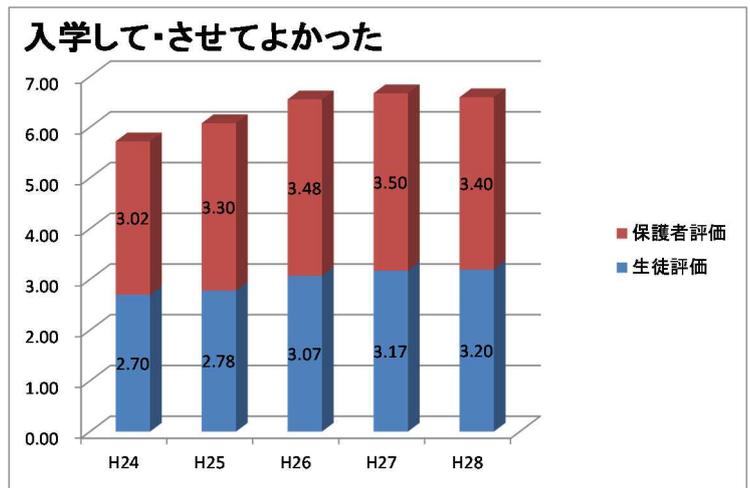


(4) - 3 生徒・保護者対象に行った「本校で充実した生活を送っている」に回答した生徒の評価平均が年々上昇している。本年度は保護者の評価平均が昨年度より低い結果となっているが、全体としては高い評価を維持している。生徒が学校生活を積極的に送っていることの表れであると考えられる。



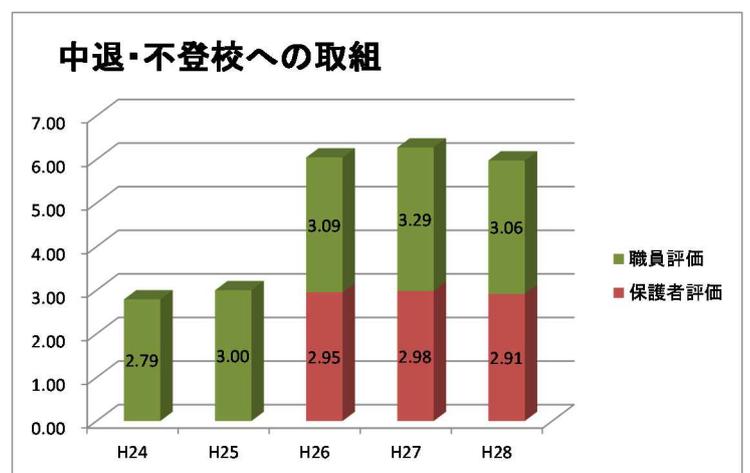
(4) - 4

生徒・保護者を対象に質問した項目で、着実に評価平均が上がってきているが、本年度はわずかに低下した。保護者の評価平均が低下したことが要因である。生徒の評価平均は上昇傾向が続いている。保護者との連携を深め、ご理解をいただく努力を続ける必要があると考える。



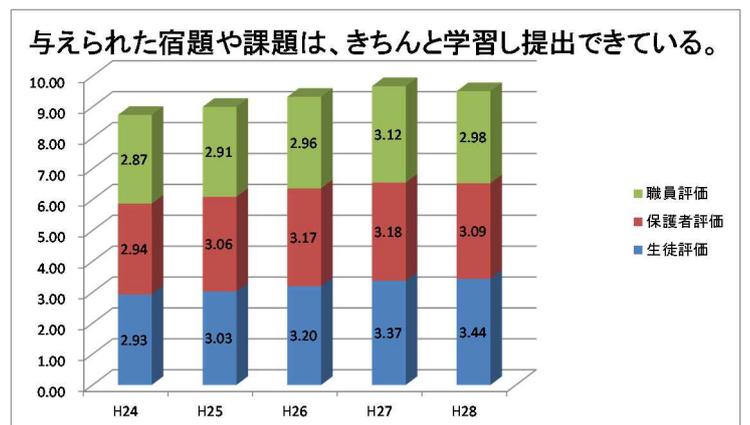
(4) - 5

昨年度まで毎年2ケタの数の生徒が進路変更している。昨年度は11名であったが、本年度は11月末現在いで6名であり、今後増えることも予想される。外部専門機関であるSSWやSCの活用は、職員に対して広がっている様である。職員と保護者の評価平均が共に低下しており、課題が残る結果である。今後、更なる取組が必要である。



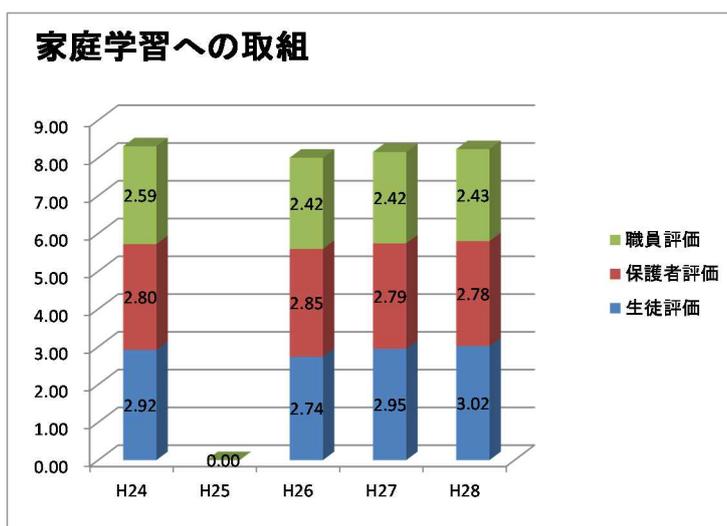
(4) - 6

学習課題に対する生徒の感覚は上昇傾向にある数値である。職員と保護者は前年度より低下している。生徒と職員・保護者の認識に差がある項目である。宿題や課題が提出できない生徒もいるので、生徒の実態を考慮しながらの指導を進めていく必要がある。



(4) — 7

例年、評価項目の中でも低い評価で推移している項目である。生徒の意識は上昇傾向にあるが、職員・保護者の認識は低いままである。前項目同様、生徒の現状を把握したうえでの対応が求められる項目である。



3 保護者意見欄から

- 服装検査や指導の基準が先生によって違う。
 - 指導のあり方に不平等を感じたり、理解できなかつたりすることがある。
 - 生徒に対する言葉遣いに気をつけて欲しい。
 - 授業中騒がしかったり、授業についていけなかつたりする。
 - 留守電話の時間帯が、他校と比べると長い。
 - 自分の事は自分でやれるようになり、挨拶もできるようになった。
 - 以前に比べると生活面や活動面が良くなっていると感じる
 - 本人は毎日楽しく学校に通っている。
- ※謙虚に受け止め課題としたい。

4 結果考察

(1) 全項目での評価平均

生徒が平成24年度以降上昇を続けている。この傾向を大切にしたい。保護者は平成26年度をピークに下降している。連携の強化や情報発信のあり方の見直しなどに取り組み向上を図りたい。職員は昨年度より0.03の降下となった。大きく降下した項目もあり、今後の課題である。

(全項目評価平均の推移)

	H24	H25	H26	H27	H28
生徒	2.96	3.14	3.17	3.30	3.36
保護者	3.07	3.18	3.26	3.24	3.22
職員	3.10	3.22	3.28	3.33	3.30

(2) 学校生活全般の満足度

生徒は年々評価が上がっているが、保護者は前年度より低めの評価となっている。生徒の満足度が上がれば、保護者の満足度も上がることに繋がる。生徒に充実した学校生活を送らせ、保護者にも理解してもらえらる指導を展開することが求められる。

(3) ホームページやメールによる広報

3者とも評価が上がっている。ホームページの頻繁な更新やメールによる積極的な情報提供が、良い状況に繋がっていると考える。今後も積極的な情報発信に努め開かれた学校を目指していきたい。

(4) 生徒指導

挨拶、服装、身だしなみに関する項目は3者とも高い評価であった。日頃からの指導が浸透していると考えられる。繰り返し指導を受ける生徒もいるが、全体としては良い状況である。この状況を維持することで、落ち着いた学校生活に繋げることができる。現状に満足せず、地道な指導を続けていきたい。

(5) 進路指導

生徒の評価と比較して、保護者の評価は低い傾向にある。進路情報をしっかりと保護者にも伝えていくことが大切であると考えられる。3年間を見通した進路指導の在り方の構築を進めたい。

(6) 学習指導

宿題や課題の提出に関する項目は、生徒と職員の評価の開きが大きい。指示するだけでは提出ができない生徒がいて、職員が対応に追われる場面がある。生徒の意識の低さもあるが、支援を要する生徒がいる現実もある。

家庭学習に関する項目は3者とも低い評価である。家庭学習の習慣が身に付いていないこともあるが、生徒の実態からすると自分では勉強できない生徒もいる。

地道に取り組むしか方法はない状況ではあるが、工夫をしたり、特別支援の視点からの対応を考えたりすることが求められる。

(7) 育友会の書類

生徒・保護者は、書類提出に対して高い評価であったが、職員の評価はそれより低い。生徒が催促をされながら提出できている状況があると考えられる。持ち帰って保護者に見せ、返事を学校へ提出することを体験させることで、責任感や些細なことでもきちんとやり遂げる態度を学ばせたい。

(8) 資格検定試験対策、専門的な知識技能の指導、安全教育

高い評価を受けている項目である。専門高校としてしっかりと指導すべき項目である。これまでの指導のノウハウを踏まえて、実態に合わせた指導を行うことが必要である。安全に関する項目は生徒、職員ともに高い評価であり、良い傾向であると考えている。

(9) 校務改善

昨年度から職員に対して加えた項目で、昨年度よりさらに低い結果となった。学校改革支援事業が昨年度で終わり、改革が進んでいない状況があることも否めない。昨年度までの取組を踏まえ、改革を進める必要がある。

番号	質問項目	対象	生徒			保護者			職員			増減		
			年度	av24-27	H28	差	av24-27	H28	差	av24-27	H28	差	生徒	保護者
1	学校新聞やホームページ、一斉メールをとおり、生徒、保護者に対して適切な広報ができています。	生保職	3.02	3.38	0.36	3.35	3.44	0.10	3.57	3.76	0.19	↑	→	↗
2	学校行事である商工フェスタやスポーツ祭は楽しく充実している。	生	3.23	3.43	0.20	/	/	/	/	/	/	↑	/	/
3	生徒徴収金に対する会計の明瞭化は適切にできています	保	/	/	/	3.39	3.39	0.00	/	/	/	/	→	/
4	本校の校内研修は、資質向上に役立っている。	職	/	/	/	/	/	/	3.51	3.48	-0.03	/	/	→
5	わかる授業、興味・関心を持てるような授業が行われている。	生職	3.10	3.18	0.08	/	/	/	3.19	3.00	-0.19	→	/	↓
6	本校は基礎学力向上のため、十分な学習指導ができています。	生保職	3.05	3.34	0.29	3.11	3.16	0.05	3.11	3.23	0.12	↑	→	↗
7	公開授業や研究授業により教科指導の工夫改善を行い、分かる授業を行うことができています。	保職	/	/	0.00	3.13	3.25	0.11	3.25	3.24	-0.01	/	↗	→
8	与えられた宿題や課題は、きちんと学習し提出できています。	生保職	3.13	3.44	0.30	3.09	3.09	0.01	2.97	2.98	0.01	↑	→	→
9	考査前の学習指導は適切にできています。	生保職	3.19	3.38	0.20	3.11	3.12	0.01	3.21	3.30	0.08	↗	→	→
10	家庭学習の指導は適切にできています。	生保職	2.87	3.02	0.15	2.81	2.78	-0.04	2.48	2.43	-0.04	↗	→	→
11	学年ごとに生徒の進路に応じた指導（キャリア教育）ができています。	生保職	3.09	3.29	0.20	3.14	3.14	0.01	3.15	3.17	0.02	↑	→	→
12	進路ニュース等の情報提供は、適切にできています。	生保職	3.11	3.28	0.18	3.04	3.10	0.05	3.04	3.08	0.04	↗	→	→
13	自らの進路を考える環境があり、望ましい職業観や勤労観を学ぶことができています。	生保職	3.08	3.34	0.26	3.09	3.12	0.04	3.04	3.39	0.35	↑	→	↑
14	社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心など）をはぐくむ指導は十分できています。	生保職	3.09	3.35	0.26	3.16	3.13	-0.03	3.13	3.33	0.20	↑	→	↑
15	就職指導(学習)・進学対策への取組は適切にできています。	生保職	3.19	3.40	0.21	3.18	3.17	-0.01	3.21	3.27	0.06	↑	→	→

番号	質問項目	対象	生徒			保護者			職員			増減		
			年度	av24-27	H28	差	av24-27	H28	差	av24-27	H28	差	生徒	保護者
16	基本的な生活習慣や規範意識を高く導く指導は十分できている。	生保職	3.15	3.37	0.22	3.19	3.22	0.04	3.29	3.48	0.19	↑	→	↗
17	挨拶や服装など身だしなみの指導は適切にできている。	生保職	3.36	3.53	0.16	3.40	3.54	0.15	3.45	3.66	0.21	↗	↗	↑
18	地域や校内で美化活動に積極的に取り組み、校内はきれいに整備できている。	生保職	3.08	3.27	0.19	3.38	3.41	0.03	3.27	3.33	0.07	↗	→	→
19	命の大切さや人間関係づくりを高く導く指導は十分できている。	生保職	3.18	3.40	0.22	3.23	3.25	0.03	3.18	3.22	0.04	↑	→	→
20	いじめなどへの対応は適切にできている。	生保職	3.14	3.38	0.24	3.13	3.15	0.03	3.32	3.43	0.10	↑	→	↗
21	日頃から、周囲の人に対して、人権尊重を意識した言動に心がけている。	職	/	/	/	/	/	/	3.38	3.39	0.02	/	/	→
22	本校の人権教育は適切であり、人権について考える内容である。	生	3.18	3.44	0.26	/	3.17	/	/	3.42	/	↑	/	/
23	関わる生徒に対し本校で充実した生活を送れるよう指導を尽くしている。充実した生活ができている。	職	/	/	/	/	/	/	3.27	3.49	0.22	/	/	↑
24	中退者・不登校の減少のための手立てを組織的に取組むことができている。	保職	/	/	/	2.97	2.91	-0.05	3.04	3.06	0.02	/	↘	→
25	本校で充実した生活を送っている。	生保	3.07	3.35	0.28	3.31	3.29	-0.03	/	/	/	↑	→	/
26	学校版ISOの取組(節電、節水、整理整頓)は十分できている。	生職	3.00	3.24	0.25	/	/	/	3.17	3.10	-0.08	↑	/	↘
27	ボランティア活動の情報提供や取組は十分にできている。	生保職	3.04	3.26	0.23	3.13	3.17	0.04	3.17	3.25	0.08	↑	→	→
28	育友会関係文書は確実に保護者に渡し、担任に提出することができている。	生保職	3.24	3.44	0.21	3.22	3.27	0.05	3.07	3.22	0.16	↑	→	↗
29	広報紙「風青」及びPTA新聞「雲生る」は生徒の活動を理解する内容になっている。	生保職	3.11	3.27	0.16	3.16	3.26	0.10	3.29	3.48	0.19	↗	→	↗
30	図書館は利用しやすい環境になっている。	生保職	3.06	3.43	0.37	3.02	3.20	0.17	3.34	3.49	0.15	↑	↗	↗

番号	質問項目	対象	生徒			保護者			職員			増減		
			年度	av24-27	H28	差	av24-27	H28	差	av24-27	H28	差	生徒	保護者
31	図書館だよりで紹介された本は読書の参考となる内容になっている。	生職	2.96	3.28	0.32	/	/	/	3.17	3.41	0.24	↑	/	↑
32	芸術鑑賞は心豊かになる内容となっている。	生職	3.28	3.42	0.14	/	/	/	3.41	3.56	0.15	↗	/	↗
33	自らの健康（心身の健康や体力の向上）管理ができる指導ができています。	生保職	3.20	3.34	0.14	3.14	3.14	0.00	2.94	3.17	0.22	↗	→	↑
34	安全面・健康面に十分配慮した指導ができています。	生保職	3.29	3.45	0.16	3.23	3.28	0.05	3.32	3.46	0.13	↗	→	↗
35	交通安全教育（自転車や原付、委員会活動）の指導は適切に行われている。	生保職	3.35	3.51	0.16	3.29	3.36	0.07	3.50	3.45	-0.05	↗	→	↘
36	施設の安全管理は適切にできています。	生保職	3.37	3.50	0.14	3.26	3.30	0.04	3.29	3.35	0.05	↗	→	→
37	丁寧で的確な電話の対応ができています。	保職	/	/	/	3.34	3.35	0.01	3.40	3.29	-0.11	/	→	↓
38	部活動をしたいと思っている。指導は適切に行われている。	生保職	2.88	3.05	0.17	3.10	3.17	0.07	3.10	3.13	0.03	↗	→	→
39	本校に入学して・させて良かったと思っている。	生保	2.93	3.20	0.26	3.32	3.40	0.07	/	/	/	↑	→	/
40	チャレンジタイムの活用で学習や読書への意識を高めることができています。	生	3.07	3.30	0.23	/	/	/	/	/	/	↑	/	/
41	資格取得に対する指導は充分できています。	生保職	3.33	3.41	0.08	3.23	3.37	0.14	3.34	3.31	-0.04	→	↗	→
42	専門的な知識・能力の育成に向けた指導が適切にできています。	生保職	3.26	3.43	0.17	3.24	3.32	0.08	3.34	3.29	-0.05	↗	→	→
43	実習時の安全作業の指導は適切にできています。	生職	3.48	3.54	0.05	/	/	/	3.57	3.56	-0.01	→	/	→
44	実習室はきちんと整理整頓され、安全で学習にふさわしい環境が整っている。	生職	/	3.58	/	/	/	/	/	3.50	/	/	/	/
45	校務改善で生徒と向き合う時間が以前より増加した。	職	/	/	/	/	/	/	3.08	2.85	-0.23	/	/	↓
平均値			3.14	3.36	0.20	3.18	3.22	0.04	3.23	3.30	0.07			
標準偏差			0.14	0.12		0.13	0.15		0.20	0.24				